慢性甲状腺機能障害の疫学と予後に関する研究報告書

久留米大学医学部小児科　山下　文雄
林　真夫
江崎　泰之
行実　成実
聖マリア病院新生児科　橋本　武夫
中島　博文

1. 九州地区のスクリーニング状況

我々は，福岡県，大分県の一部と佐賀県を担当しているが，佐賀県で21,291例の検査で，4名の発見で発見率1/5,324と最も高い頻度であった。全九州での発見率は404,990例中43例で発見率1/9,418であった。

2. スクリーニングで発見されたクレチン症のIQ(DQ)低下の検討

現在follow up中の8例（10例中1例は死亡，1例は転院）のIQ（田中・ビネー），DQ（津守・稲毛）を測定し，6例にI^{123}によるシンチグラフィーを行なった。IQの低下がみられた，症例2は，治療開始が4ケ月と遅れたこと，合併した動脈管開存症（PDA）による重症心不全による低酸素状態の持続が，低下の原因と考えられる。症例3は，治療開始も早く，他にIQ低下を起こすような身体的異常やエピソードもなかったので，無甲状腺による胎内での中枢神経系の発達に問題があった可能性がある。症例8は，合併したDown症候群が関係しているものと思われる。

3. 先天性心臓病の合併

クレチン症と先天性心臓病（CHD）の合併した報告は少ないが，我々はスクリーニングで発見された10例中3例にPDAの合併を経験した。3例中2例は未熟児でそのうち1例はDown症候群の合併もみられた。CHDによる心不全状態時には，臨床的にクレチン症を診断するのは困難であった。心不全は甲状腺剤の投与により急速に改善した。甲状腺ホルモンの欠乏により，心不全が増強し，児の状態を悪化させることを考えると，早期診断，早期治療が大切で，スクリーニングの有用性を再認識させられた。

九州地区のクレチン症スクリーニング実施状況（昭和56年12月現在）

	開始年月	方法	検査数	患児数	頻度
福岡県	54年10月	TSH	141,113	15	1／9407
長崎県	54年12月	〃	49,140	1	1／49140
熊本県	55年 1月	〃	55,637	4	1／13909
宮崎県	55年 2月	〃	33,290	2	1／16645
鹿児島県	55年 2月	〃	50,174	9	1／5575
佐賀県	55年 4月	〃	21,291	4	1／5324
沖縄県	55年 5月	〃	33,803	6	1／5634
大分県	55年 9月	〃	20,538	2	1／10269
			404,990	43	1／9418

スクリーニングで発見されたクレチン症
病型とIQ（DQ）

症例	IQ（DQ）	病型	治療開始	合併症・その他
1. T.U.	117（田中・ビネー）	異所性	56 生日	
2. H.A.	80（〃）	異所性	4 カ月	CHD（PDA）
3. H.A.	80（〃）	無甲状腺	21 生日	
4. H.I.	103（津守・稲毛）	異所性	31 生日	
5. S.T.	105（〃）	異所性	16 生日	
6. H.I.	100（〃）	有機化障害	28 生日	
7. Y.M.	105（〃）	−	36 生日	
8. Y.Y.※	68（〃）	−	55 生日	CHD（PDA）,Down症候群

※ 聖マリア新生児科

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1.九州地区のスクリーニング状況

我々は,福岡県,大分県の一部と佐賀県を担当しているが,佐賀県で21,291例の検査で,4名の発見で発見率 1/5,324 と最も高い頻度であった。全九州での発見率は 404,990 例中 43 例で発見率 1/9,418 であった。